

生活保護と最低賃金の比較について(令和元年度 新潟県)

I 前提

- 若年単身 → 生活保護基準では12～19歳・単身世帯
- 県内級地別人口 →
- | | | | |
|-------|--------------|-------------|------------|
| 1級地-1 | : 0人 | 1級地-2 | : 0人 |
| 2級地-1 | : 810,157人 | 2級地-2 | : 275,133人 |
| 3級地-1 | : 1,019,917人 | 3級地-2 | : 199,057人 |
| 計 | : 2,304,264人 | (内訳は別紙のとおり) | |
- 冬期加算地区区分 → II区

II 生活保護

人口加重平均の場合

(1) 生活扶助基準

① 第1類費及び第2類費 基準額

$$\begin{aligned} & (72,080円 \times 810,157人 + 71,510円 \times 275,133人 + 68,430円 \times 1,019,917人 \\ & + 66,480円 \times 199,057人) \div 2,304,264人 = 69,913円 \dots \textcircled{1} (\text{四捨五入せず}) \end{aligned}$$

② 冬期加算(10月から4月まで・1ヵ月平均)

2級地-1	: 9,030円	× 7 ÷ 12 =	5,268円 (1円未満四捨五入)
2級地-2	: 9,030円	× 7 ÷ 12 =	5,268円 (同上)
3級地-1	: 9,030円	× 7 ÷ 12 =	5,268円 (同上)
3級地-2	: 9,030円	× 7 ÷ 12 =	5,268円 (同上)

$$\begin{aligned} & (5,268円 \times 810,157人 + 5,268円 \times 275,133人 + 5,268円 \times 1,019,917人 \\ & + 5,268円 \times 199,057人) \div 2,304,264人 = 5,268円 \dots \textcircled{2} (1円未満四捨五入) \end{aligned}$$

③ 期末一時扶助費(12月のみ・1ヵ月平均)

級地別の期末一時扶助費(1ヵ月平均)

2級地-1	: 12,880円	÷ 12 =	1,073円
2級地-2	: 12,250円	÷ 12 =	1,021円 (同上)
3級地-1	: 11,610円	÷ 12 =	968円 (同上)
3級地-2	: 10,970円	÷ 12 =	914円 (同上)

$$\begin{aligned} & (1,073円 \times 810,157人 + 1,021円 \times 275,133人 + 968円 \times 1,019,917人 \\ & + 914円 \times 199,057人) \div 2,304,264人 = 1,007円 \dots \textcircled{3} (1円未満四捨五入) \end{aligned}$$

生活扶助(1類費及び2類費+冬期加算+期末一時扶助費)

$$\begin{aligned} & = \textcircled{1} + \textcircled{2} + \textcircled{3} \\ & = 69,913円 + 5,268円 + 1,007円 = \underline{\underline{76,187円}} \end{aligned}$$

(2) 住宅扶助実績値

【元年最新データ：新潟県住宅扶助実績値・世帯人員1人】

	被保護世帯数	住宅扶助実績値	
新潟県	5,826世帯	× 15,766.1円	= 91,853,298.6円
新潟市	7,239世帯	× 25,297.6円	= 183,129,326.4円
計	13,065世帯		274,982,625.0円

$$\text{平均値 } 274,982,625円 \div 13,065世帯 = \underline{\underline{21,047円}} (1円未満四捨五入)$$

(3) 生活扶助基準+住宅扶助実績値

以上、(1)、(2)より、

$$\text{生活扶助基準} + \text{住宅扶助実績値} = 76,187円 + 21,047円 = \underline{\underline{97,234円}} (1円未満四捨五入)$$

III 最低賃金との比較

時給 830円 (令和元年度新潟県最低賃金額)で月173.8時間(週40時間)働いた場合の
1ヵ月の収入(手取額)は、

$$830円 \times 173.8時間 \times ※0.817 = \underline{\underline{117,856円}} \text{ (1円未満四捨五入)}$$

※0.817 は、時間額173.8時間働いた場合の税・社会保険料を考慮した可処分所得の総所得に対する比率

賃金額の乖離額については、以下のとおり。

$$\text{生活保護} - \text{最低賃金(手取額)} = 97,234円 - 117,856円 = \underline{\underline{-20,622円}}$$

したがって、乖離額は、 **-20,622円** (生活保護水準を上回る。)

生活保護と最低賃金の比較について(令和元年度 新潟市)

I 前提

○若年単身	→	生活保護基準では12～19歳・単身世帯			
○県内級地別人口		1級地-1	0人	1級地-2	0人
		2級地-1	810,157人	2級地-2	0人
		3級地-1	0人	3級地-2	0人
		計	810,157人	(内訳は別紙のとおり)	
○冬期加算地区区分	→	II区			

II 生活保護

人口加重平均の場合

(1) 生活扶助基準

① 第1類費及び第2類費 基準額

$$\begin{aligned} & (72,080円 \times 810,157人 + 0円 \times 0人 + 0円 \times 0人) \div 810,157人 = \underline{72,080円} \dots \textcircled{1} (\text{四捨五入せず}) \end{aligned}$$

② 冬期加算(10月から4月まで・1ヵ月平均)

2級地-1	9,030円	×	7	÷	12	=	5,268円 (1円未満四捨五入)
2級地-2	0円	×	7	÷	12	=	0円 (同上)
3級地-1	0円	×	7	÷	12	=	0円 (同上)
3級地-2	0円	×	7	÷	12	=	0円 (同上)

$$\begin{aligned} & (5,268円 \times 810,157人 + 0円 \times 0人 + 0円 \times 0人) \div 810,157人 = \underline{5,268円} \dots \textcircled{2} (\text{1円未満四捨五入}) \end{aligned}$$

③ 期末一時扶助費(12月のみ・1ヵ月平均)

級地別の期末一時扶助費(1ヵ月平均)

2級地-1	12,880円	÷	12	=	1,073円 (1円未満四捨五入)
2級地-2	0円	÷	12	=	0円 (同上)
3級地-1	0円	÷	12	=	0円 (同上)
3級地-2	0円	÷	12	=	0円 (同上)

$$\begin{aligned} & (1,073円 \times 810,157人 + 0円 \times 0人 + 0円 \times 0人) \div 810,157人 = \underline{1,073円} \dots \textcircled{3} (\text{1円未満四捨五入}) \end{aligned}$$

生活扶助(1類費及び2類費+冬期加算+期末一時扶助費)

$$\begin{aligned} & = \textcircled{1} + \textcircled{2} + \textcircled{3} \\ & = 72,080円 + 5,268円 + 1,073円 = \underline{78,421円} \end{aligned}$$

(2) 住宅扶助実績値

【元年最新データ：新潟県住宅扶助実績値・世帯人員1人】

	被保護世帯数	×	住宅扶助実績値	=	
新潟県	0世帯	×	0.0円	=	0.0円
新潟市	7,239世帯	×	25,297.6円	=	183,129,326.4円
計	7,239世帯				183,129,326.4円
平均値	183,129,326円	÷	7,239世帯	=	<u>25,297円</u> (1円未満四捨五入)

(3) 生活扶助基準+住宅扶助実績値

以上、(1)、(2)より、

$$\text{生活扶助基準} + \text{住宅扶助実績値} = 78,421円 + 25,297円 = \underline{103,718円} \text{ (1円未満四捨五入)}$$

III 最低賃金との比較

時給 830円 (令和元年度新潟県最低賃金額)で月173.8時間(週40時間)働いた場合の
1ヵ月の収入(手取額)は、
 $830円 \times 173.8時間 \times ※0.817 = \underline{\underline{117,856円}}$ (1円未満四捨五入)
※0.817 は、時間額173.8時間働いた場合の税・社会保険料を考慮した可処分所得の総所得に対する比率

賃金額の乖離額については、以下のとおり。

$$\text{生活保護} - \text{最低賃金(手取額)} = 103,718円 - 117,856円 = \underline{\underline{-14,138円}}$$

したがって、乖離額は、 **-14,138円** (生活保護水準を上回る。)